

Saidai Concierge 21

<http://www.saitama-u.ac.jp/>

サイダイ
コンシェルジュ

August 2015

21

ラボ探訪 -Welcome to my laboratory-

- 大学院人文社会科学研究科
斎藤 友之 教授 05
大学院理工学研究科
吉川 洋史 准教授 06
埼玉大学ハイグレード理数高校育成プログラム:
HiGEPS 07

就職サポート体制 -学務部 学生支援課- 08

クローズアップ

- 地域対抗“知財活用アイデア”プレゼン全国大会in東京
最優秀賞 経済学部吉田ゼミ 09
福島県再生可能エネルギー普及アイデアコンテスト 入賞
大学院理工学研究科環境システム工学系 松下恵理さん
..... 10

日本で、世界で 活躍する埼大生! 11

卒業生紹介 13

- 活躍する卒業生からのメッセージ
大学院理工学研究科支援室大学院教育部係
三浦 淑恵さん
サークル紹介-PASSION- 14
放送研究会

卷頭特集 Top Interview

齊藤副学長に訊く

~All in One Campusを活かした文理融合型人材育成とは~

01



卷頭特集 Top Interview

齊藤副学長に訊く

～All in One Campusを活かした文理融合型人材育成とは～

理事(教学・学生担当) 副学長 齊藤 享治

いま、全国の国立大学には、これまで以上に「知の創出機能の強化」、「イノベーション創出力の強化」、「人材育成機能の強化」が求められています。埼玉大学でもさまざまな機能強化戦略を推し進め、着実に成果を上げつつあります。そこで埼玉大学全体として、どのような人材を輩出したいと考えているのか、教学・学生担当理事、齊藤副学長に、広報室学生サポートスタッフがお話を伺いました。





インタビューした学生



工学部機械工学科4年
岩手県立盛岡中央高校出身
おお さわ ゆう すけ
大澤 優輔さん



教育学部乳幼児教育専修2年
埼玉県立川越女子高校出身
やま にし あ み
山西 彩美さん



「社会の中核を支える イノベーティブなグローバル人材」を育成。

学生 今日はこのような機会をいただき、ありがとうございます。
早速ですが、今回のテーマである「All in One Campus」と「文理融合型人材育成」について、お話を伺っていきたいと思います。

最近の学長の挨拶にもこの2つの言葉がでてきますが、そもそもどのような人材を育成しようとしているのでしょうか。加えてどのような教育が施され、そこに5学部がひとつのキャンパスにあるAll in One Campusはどうリンクしていくのでしょうか。

齊藤 埼玉大学が目指す文理融合型の人材像は、キャッチフレーズ的に表すと「社会の中核を支えるイノベーティブなグローバル人材」です。イノベーティブは一般的に技術革新の意味で使われますが、それに限らず新しいアイデアによる社会的変革を意味します。これまでのような特定の専門分野の知識を詰め込むような教育を受けても、なかなかイノベーティブなアイデアは出てこないので、文系理系の枠を越えた多面的で柔軟な思考を醸成させる教育を施すこと重要なと考えています。

そうした教育をひとことで文理融合教育と称しますが、埼大では2016年度から始まる6年間の第3期中期目標期間のなかで文理融合の定義も明確にした教育システムを実施するため、いま議論を重ね策定している最中です。

学生 私たちが現在受けているカリキュラムで、基盤教育、基盤科目の履修が文理融合教育にあたるのではと感じます。

齊藤 その通りで、広義の文理融合教育となっています。これまで実施してきた基盤教育は、教養、経済といった文系科目を後々専門に受けていく学部の学生には自然科学系科目の授業履修を必修とし、逆に工学部、理学部では人文社会科学系科目を必修として、多面的な思考を養う目的で行われてきました。まさに文理融合教育の思想が入っています。

現在の形の基盤教育を実施して5年目になりますが、これまで受講人数の制限がほとんどなく、自分の得意な科目、単位の取りやすい科目に集中して本来の趣旨に沿わない科目も出てきた反省から、今年度少し手直しを加えました。科目内容が分かりやすいように図書分類に沿って体系立て、人数制限を課して受講者の少ない科目への誘導を試みました。さらに授業内容が難しいと言われた教員には、ボトムラインを下げるよう指示も出しています。

学生 この前期に関しては以前と変わっていない印象ですが。

齊藤 学生にも教員にも周知不足で浸透していませんでしたね。これも糧としてさらにブラッシュアップさせていきたいと思っています。

そこで基盤教育を文理融合教育によりリンクさせていくために考えているのは、現在1、2年生が受講のほとんどを占めるのですが、それを1~4年で平均的に受講する形にすることです。専門教育を受けている3、4年の段階で、異分野における自分なりの課題解決に必要な基盤科目を選択し受講したほうが、多面的な思考を育む本来の意図に沿うと考えるからです。興味だけの受講、単位の取りやすさだけの偏り受講はこれで解消できると考えています。

もう一点基盤教育で埼大ならではのメリットを活用していることを付け加えておきます。「All in One Campus」です。基盤科目は専任教員と非常勤講師が担当していますが、専任教員が容易に担当できるのは、5学部が1キャンパス内にあり、研究室から教室まですぐに行き来できるロケーションがあるからです。

All in One Campusだからこそ、 多面的な柔軟な思考を身につけられる。

学生 基盤教育が文理融合教育の鍵を握ることはよくわかりました。新教育システムではほかにどのようなプランがありますか。

齊藤 理工系の6年一貫教育ですね。学部4年と修士2年をひと続きとする教育プログラムをいま設計しています。6年にすると授業科目の置き方に余裕ができます。専門科目のほかに人文社会系の科目がより多く入れられます。理工系でも社会に出ると経営的な素養が必要になってきますし、コンプライアンス教育も必要となってきます。6年一貫で余裕をもった文理融合教育が望めると思います。

ただし誤解しないでいただきたいのが、4年ではダメだといっているわけではありません。学部4年で卒業してもこれまでとそん色のない学修を修められるプログラムが組まれます。実際、文系学部は4年で卒業がほとんどですから。少し補足しておきますが、文系の文理融合教育は先にも言いましたが、基盤教育に重きを置き、学生の意識づけも含めて充実させていきたいと考えています。文系だから理系知識は必要ないとは言えません。社会に出て科学的素養があるといいでは差がついてしまうこともあります。数学、物理といった論理的思考を培っておくと有利な場面はいくらでもあります。基盤教育で理系に対する拒否感を払拭しておきたいですね。

学生 グローバル人材の育成はどのようにお考えですか。



齊藤 海外に出て活躍する人だけをグローバル人材というのではありません。日本以外の世界中の多様な文化、価値観を認めて思考、行動できる人のことをグローバル人材と称しています。

埼大の留学生比率はとても高く、全国平均が全在学生に対して3%なのに、埼大は6%です。さらにここにも出てきますがAll in One Campus、留学生のすべてがひとつのキャンパスに集っています。これを活かさない手はありません。留学に行かずとも、学内で世界中の留学生と交流することにより、多様な文化、価値観を学べ、自然とグローバル感覚は身についていきます。多面的な柔軟な思考を身につける、文理融合教育との整合性もあります。



新聞のどの面どの分野の記事を読んでも、大方理解できる能力を備えた人を。

学生 All in One Campusと文理融合教育との関係性や目指す姿は理解できました。そこから育成される人材の具体像は。

齊藤 冒頭で、埼大が目指す人材像は、「社会の中核を支えるイノベーション型グローバル人材」だと述べました。社会の複雑な現代的課題を解決するには、学力の3要素が必要と言われています。①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」、③「主体性・多様性・協働性」です。知識、技能、思考力、判断力、表現力は専門分野の教育課程でかなり深いところまで身に付いていると思われます。その学力を専門分野だけではなく、文理を問わない広い分野で身につけても

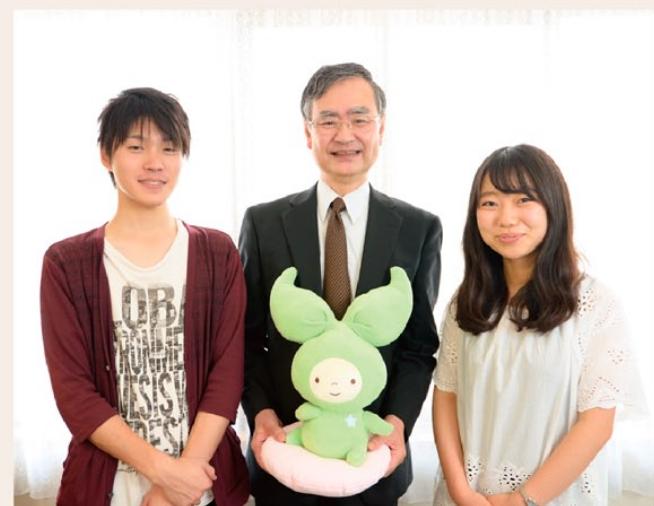
らうのが文理融合教育の核でした。これによりイノベーション型人材ができます。

主体性、多様性、協働性はどうかというと、これらは学力というよりも人間力、生活力を量るものと捉えていいでしょう。学内ではサークル活動、留学生との交流など、学外でもアルバイトなどで培うことができます。また教育の一環として行うインターンシップも活用できます。これらによりイノベーション型グローバル人材が形成されます。

さて、「社会の中核を支える」とはどういうことか。「中核を担う」ではないのか、といった議論もありますが、担う人はトップの一握りであり、必ずしもそこにいなければいけないとは考えないです。それよりも担う人も含めた中核を形成する、そこを支える人材になって欲しいという想いを表しています。埼大出身で中核を担う人材も多く出ています。しかし平均的には中核を担うではなく、中核を支える、広い視野を持って考えられる人を目指していきたいと思います。

たとえて言えば「新聞のどの面どの分野の記事を読んでも、大方理解できる能力を備えた人」になると思います。

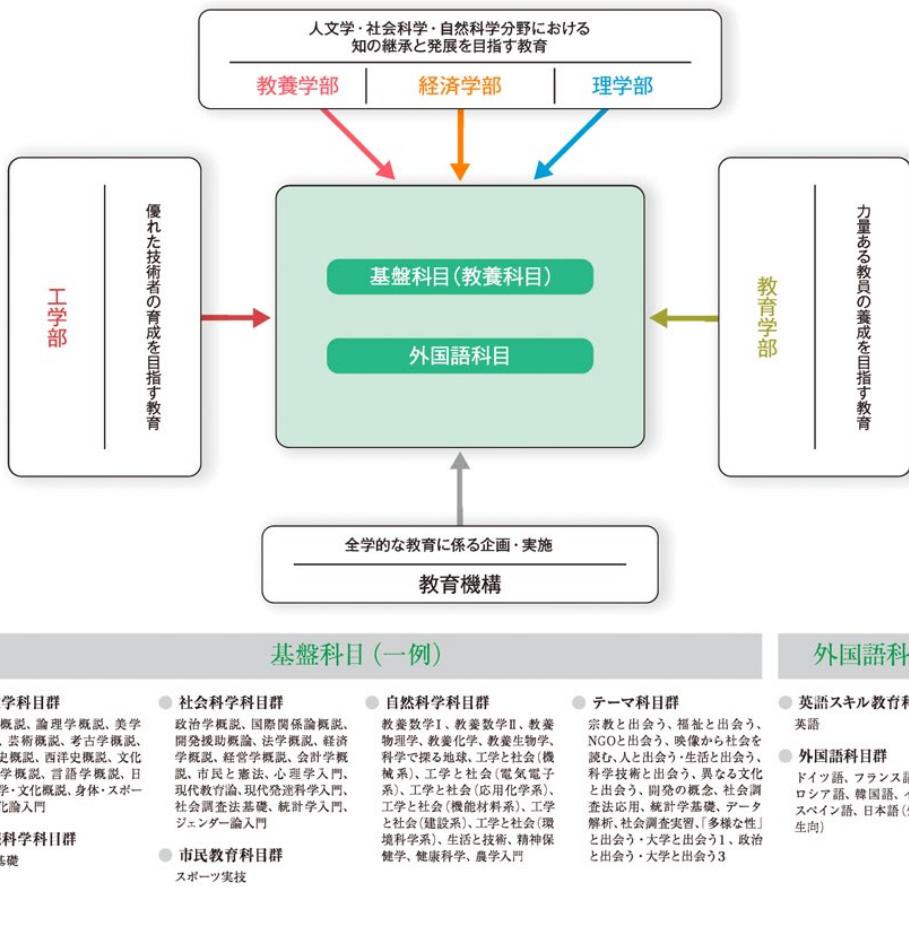
学生 ありがとうございました。私たちも文理融合型人材育成の期待に応えられるように、これからもしっかり学修に励んでいきたいと思います。





埼玉大学の文理融合型人材育成

全5学部が同一キャンパスにある総合大学という利点を活かし、学部横断的学修によって、文理融合型の人材を育成します。そのため、所属学部で専門科目を学修することと並行して、教養教育を担う基盤科目・外国語科目を学修します。この教育を支えるため、教育機構を中心として全学が協力する体制を整えています。



【インタビューを終えて】



どのような人間を輩出したいかという質問に対し、理事は「たとえて言うと、新聞の全面が理解できる人間を育成したい」と仰っていました。専門知識を学ぶために大学に入り勉強しているので、汎用性のある人材を育てると解釈できる目標は大学らしくないと思いましたが、最近、研究のために企業の方とお話しする機会があり、いわゆる一般常識的知識がコミュニケーションをとるために必要なことに気づきました。

普段の学生生活のなかでは理事や大学側の人と触れ合う機会などまったくないため、今回のインタビューは、初対面の目上の方とのコミュニケーションの取り方などを学ぶことができ、これからのお仕事や就職活動に役に立つ経験になりました。

大澤 優輔



埼玉大学は「社会の中核を支えるイノベーティブなグローバル人材」の育成を目指しており、そのための文理融合教育の中心は基盤科目の充実と履修促進だそうです。私は教育学部に所属しており、教職科目だけではいっぱい、基盤科目の選択も得意な文系科目に偏りがちです。これから子どもたちとかかわっていくうえで、理系の知識も必ず必要になってくることを、お話しのなかで実感しました。埼玉大学の文理融合教育は、文理双方の学生にとって、長い目で見たとき、必ず有用になる教育であり、またすべての学部が1つのキャンパスにあることは、文理融合型人材育成を行ううえで大きな強みであると感じました。大学理事と直接お話をすると、貴重な機会を与えていただき、自分の学修や今後のことを考えるきっかけになりました。ありがとうございました。

山西 彩美



経済学部／経済学科 法と公共政策メジャー

Welcome to my laboratory



齋藤 友之 Tomoyuki Saito

大学院人文社会科学研究科(経済経営専攻) 教授
経済学部経済学科法と公共政策メジャー長

◎経歴
1982年 日本大学法学部法律学科 卒業
(財)地方自治会議員
1989年 (一般)地方自治研究機関主任研究員
2001年 日本福祉大学助教授
2007年 埼玉大学経済学部准教授
2014年 同 教授
2015年~ 現職



「知事と学生の意見交換会」の様子

地域コミュニティの原体験が、研究生活の出発点に。

地方自治や地域経営に関心をもったきっかけは、まだ20代前半の学生だった頃の町内会活動のお手伝いでした。高齢の方々がリヤカーを引いて、町内会の廃品回収をされているところにたまたま居合わせ、「その兄ちゃん、時間があるんだつたらちょっと手伝って」と、時間は持て余すほどだったので、自立的というよりは、やらされ感100%で手伝いました。その後何回かお手伝いすることとなり、学生ながら地域活動に巻き込まれていったわけですが、意外と心地よさを覚えていた自分を見ました。反面軽然としない部分がある

ことにも気付きました。廃品回収を含めたゴミ処理は本来市町村行政の仕事ではないのか? でも高齢の方々は地域に貢献したいというボランティア精神で行っている。しかしそこに若者の姿はない等々。昔は当たり前のようにあった、お隣に醤油を借りに行くといったコミュニティはその当時ですら希薄になっていました。地域の人々と交流するなかで、地域コミュニティのベースである地域自治会の在り方を何とか変えていかなくてはならない。そしてその集合体を統べる地方自治体との関係はどうなっているのだろう。その想いが今日の研究の出発点になっています。

地方自治や行政研究の道には、いろいろな解があるから難しい。

現在、3つの研究テーマを併行して進めています。①住民を主体に置いたコミュニティの在り方、②行政組織のなかでの意思決定構造、③政策の有効性とその限界、の3つです。

②と③は理論研究で、おもしろい話ではないので、今回はわたしたちの生活に最も密着した研究テーマである①の「住民を主体に置いたコミュニティの在り方」の話をします。

いま都市部でも農村部でも、町内会レベルの地域コミュニティは不活性の極みにあります。原因はさまざまありますが、都市部でいえば住民の帰属意識の低さ、私の住む町内というオーナーシップのなさ、農村部でいえば完全に人不足と高齢化です。そこで町内に問題が起きたとき、昔のように共助の意識があれば町内で解決できたことが、いまは行政がなんとかしてくれるだろうとお任せにする傾向が強い。行政側も職員不足で後回しになりがちで、結局何も解決できないという状況も起ります。

税収減でいたれりつくせりの住民サービスが期待できない今、力ぎを握るのは地域コミュニティの自治力の復活だと私は考えています。町内会・自治会レベルの範囲でオーナーシップに基づく住民が自主管理するための近隣政府をつくり、地域の公共問題を解決する上で重要な共助の仕組みをつくる、そうやって支え合えるコミュニティをつくれば人も集まり地域を活性化できると考えます。地域に対する愛着がなくなると、そこは崩壊の一途をたどります。最近若い人がこだわりや、やりがいを見つけるために、地方への移住が増えているので、流れは少し変わってきたと思いますけれど、自分の研究成果が地域の身近なコミュニティの再生につながり、それがひとつの自治のモデルとして、これから日本に必要とされる日が来るのを楽しみにしています。

何事にも、問題を定義でき、意識し続ける力を植え付けたい。

埼大は知的創造の「濃いスープ鍋」

知的創造は、他人や異業種の交流から生まれ、専門・パカにならなければなりません。埼大はひとつのキャンパスのなかに5学部があるので、全国から集まった多様な学生、発想との接点・交流があります。また、繁華街や都市部から一定の距離を置いているので、ここでしか会わない、学生の交流密度も濃いかもしれません。そのなかで知的創造の濃いスープができています。

ゼミでの学修それ自体が地域貢献に結びつく。

現実的なカウンターパートとして地元自治体や企業の研究・授業ができるのもメリットです。実際に自治体で公務員と一緒に政策づくりや、埼玉県知事への政策提言などを行っています。現実社会の問題解決をするという意味では実践的に教育ができます。教科書を覚える学問ではなく、いかに使うかを習得できます。

重要なのは、問題をきちんと定義できる能力。

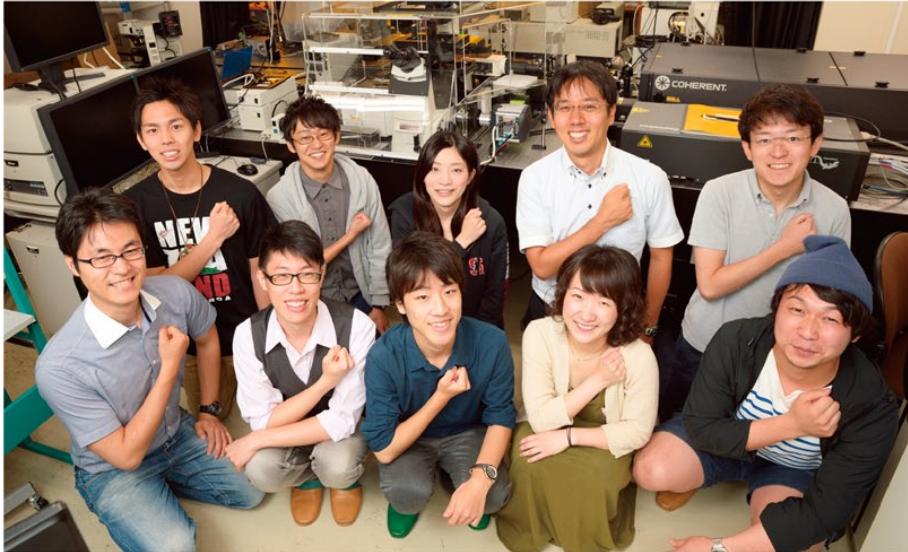
役人になろうが企業人になろうが、問題を定義できる人にならなければいけない。問題が問題であるときちんと説明できる、因果関係をきちんと説明できる人は、すでに対策もわかる。原因をわかっているから。学校で出される答えが用意された問題は、構造化された問題。ところが社会の問題は構造化されていないから、どうなってるんだと、そこに問題をきちんと定義できるという能力が活かされます。



理学部／基礎化学

Welcome to my laboratory

ラボ探訪



吉川 洋史 Hiroshi Yoshikawa

大学院理工学研究科 化学系専攻基礎化学コース 准教授

◎経歴
2006年3月 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了
2011年～ 大阪大学、ハイデルベルク大学(独)の博士研究員を経て
埼玉大学 助教
2014年～ 現職

生物的現象を、 物理、化学の言葉で解明できるか。

阪大の学部、博士後期課程まで応用物理を専攻していました。埼大では専攻分野のくりとしては化学でけれど、研究対象は細胞といった生物系のものです。高校生のときから生物をやりたいと思っていましたが、ものごとの原理である物理を学んでおいたほうが後々役に立つだろうと寄り道をしてきました。結果論とは言え、それは正解でした。最初から生物の人が生物を研究するのとは違った、物理的であったり、化学的であったりの手法・アプローチが可能になっているからです。また、この違ったアプローチをすることは私の研究プロセスのポリシーになっています。

今回の「臓器の器官再生」は再生臓器学という医学分野との共同研究です。ある学会で横浜市立大の先生と知り合い、バラバラの細胞が培養基板のうえで、だんだん集

まりひとつの組織になっていく動画を見せていただきました。生物現象としても不思議だったのですが、私はそれを粒子や分子が集まって結晶になる物理的現象と結び付けて考えていました。物理、化学の言葉で現象を解釈できるのではないかと。

集合機能化の科学を突きつめ、 新しい学問のフロンティアになる。

まずははじめに、細胞同士が結合するときの接着力を制御する培養基板を、ハイドロゲルという化学的なゲル状の物質でつくってみました。ブニブニしたゲルの硬さをいろいろと変えて実験を繰り返すと、ある硬さが最適条件となり細胞集合が起こることを発見しました。この細胞集合メカニズムを詳しく調べていると、間葉系幹細胞の存在が必要不可欠であり、間葉系幹細胞の接着性や収縮性が基板の硬さに応じて変化していることがわかつきました。実は近年の別のグループ研究で、間葉系幹細胞は、柔らかい基板の上に乗せると脳の神経細胞に変わっていき、ちょっと硬めの基板に置くと筋肉の細胞、すごく硬い基板では軟骨の細胞に分化することが明らかとなっています。つまり、これらの結果を総合的に考えると、細胞の集合や分化といった臓器形成に必要なイベントが、硬さという物理的なパラ

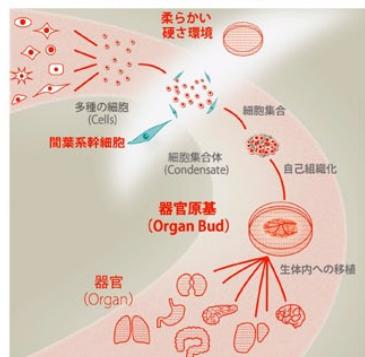
メータで制御できることが明らかになったわけです。従来の細胞実験では、外からタンパク質などの誘導因子を入れてコントロールされてきましたので、我々のような物理的なアプローチによっても細胞組織化を制御できることがわかったのはすごくインパクトのある発見でした。

器官再生という意味では、腎臓、心臓、肺などさまざまな器官の原基が形成されたところまではきていますが、これらを移植してどうなるかは医学部の仕事。しかし、私の研究としてもまだ完結はしていません。最終的に本当に機能ある形になるまでに、どういう条件が必要なのか? どんな物理的・化学的なパラメータをいつ・どこに加えれば、どんなふうに形や機能に利いてくるのかを解明すべく実験を進めています。

私が目指すところは、そもそもバラバラだったものが、どうして特徴的な形をつくり最後は機能するのかを解明することです。世の中には結晶も含め、分子からクラスター、細胞まで、集まって機能を発揮するものはいっぱいあります。融合学、自己組織化+機能化のサイエンスとして、ひとつの教科書が書けるほど発達する可能性はある。生物、化学、物理の人が融合してやる価値があると思っています。

集合機能化の科学として新しい学問ができるといいですね。集合機能科学とでも名付けましょうか。

器官再生細胞培養の概要



。

埼大は 自立的な新しい研究の宝庫。

いまの国の政策だとプロジェクト型の研究が多いのですが、埼大には自立的に研究できる環境があります。小さなスケールのなかで研究者が独立して研究しています。連携する意味でも関東にあるのは有利。相互作用のなかで新しい研究が生まれやすい環境にあります。

すばらしい先生も多いし、学生にとても手厚い環境だと思いますよ。

研究者の大切な資質は、 自分で課題を生み出すこと。

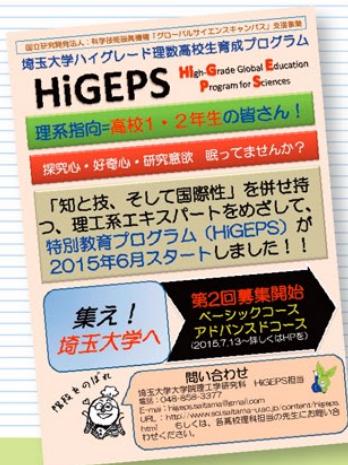
先生に課題を出されて100点をとることだけを喜びしていると、研究活動では難しいことがあります。私がこれやりなさいと実験の指示を出したとき、研究生が「失敗しました」と結果を持ってくる。ところが違う観点から見ると面白い結果が出ているのです。違う方向でサイエンスの世界の課題設定をしてみると、成功とは言わないかもしれないが発見になっている場合があるのです。自分自身に課題設定ができるかどうか、それが資質といえるでしょうね。





JSTグローバルサイエンスキャンパス事業

埼玉大学ハイグレード理数高校生育成プログラム



HiGEPS [ハイジェップス]

大学院理工学研究科 HiGEPS支援室

井上 直也 教授



理工系分野に強い興味・意欲をもった積極的な高校生に向けて、
より高度な科学の知識とスキルおよびグローバル性を育むために。



埼大HiGEPS、満を持してスタート

埼玉大学ハイグレード理数高校生育成プログラム:HiGEPSは、科学技術振興機構(JST)のグローバルサイエンスキャンパス事業の採択を受けて2015年6月にスタートしました。

グローバルサイエンスキャンパス事業は、JSTが次世代科学者育成事業の一環として2014年度より実施している事業で、『将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的とし、地域で卓越した意欲・能力を持つ高校生などを募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な理数教育プログラムを開発・実施する大学の企画を支援』(JSTホームページより引用)するものです。2014・15年度で京大、阪大、慶應大など全国の国私立大学13校が採択され、各校でそれぞれの特色を活かしたプログラムがスタートしています。

HiGEPSもその趣旨に則り、『「知と技、そして国際性」を併せ持つ理工系人材の育成』をスローガンに、綿密なカリキュラム構築と資源の投入を行っています。そこには本学の特長的な資源、文理5学部がひとつのキャンパスにあること、留学生が多いことも活かされています。理学部を中心に工学部・教育学部と外国人研究者・留学生の協力を得て、HiGEPSは全学をあげて推進してきています。



「知と技、そして国際性」を併せ持つ 理工系人材を育てる

HiGEPSの主題といえる理工系人材育成のために、本プログラムでは、高校1年生を対象とする「ベーシックコース」と2年生対象の「アドバンスドコース」^{※注}の2つのコースを開設しています。

ベーシックコースでは理工系の基礎分野である数学、物理、化学、生物、地学についてのトピックスを大学レベルのセミナー形式で学びます。また、外国人研究者・留学生を講師にまねき、理学英語セミナー・談話会を行い国際性を磨きつつ、この1年次に『聞いて・理解し・議論することができる』という理工系に不可欠なスキルの習得とアグレッシブな探究心を育成します。



アドバンスドコースでは理工学研究科および連携機関のもつ研究力のポテンシャルを活用し、高校生自らが選択したテーマを個別研究で深耕します。さらに履修中最後の春休みに集大成として海外の大学・研究機関にて1~2週間の短期海外研修を行いグローバル感覚を養います。

HiGEPSプログラムを通して「知と技、そして国際性」を併せ持つ理工系人材が育つことを確信していますが、HiGEPSでは単に数人のエリートを養成するプログラムとは考えていません。広く理工系に強い興味・意欲をもったアグレッシブな高校生に、より高度な科学の知識とスキルおよびグローバル性を育む教育を通して、「大きく伸びる生徒」が出てくることを期待しています。

受講の結果「埼大いいね!」と入学までこぎつけてくれることを願っていますが、HiGEPSで培ったスキルは、将来の大学・大学院での研究活動にきっと大きな糧になるものだと思います。

※注:本来はベーシックコースを1年履修したうえで選抜された約15人が受講する。2015年度は初年度であるため、併行して2年生も募集した。



就職サポート体制

一人ひとりの強みと魅力を引き出し、納得できる就活を全力でサポートします。

充実した支援体制のもと、毎年、埼玉県内外の優良企業、公務員、教員へと質の高い卒業生を送り出している埼玉大学。2016年4月入社の就職・採用活動は新たな紳士協定のもとに、いままさに佳境を迎えています。埼大の学生へのサポート体制は何が変わった、何が変わらないのか、最前線で学生をサポートする学生支援課に話を伺いました。

昨年と今年のサポート体制で 何か変化はありますか?

塩野 現在の4年生は、政府方針に基づく就職・採用活動開始時期変更後の初年度の学生となります。1年のサイクルが終わっていないので総括はまだ出来ませんが、企業は横にらみの手探り状態で採用選考の準備を進めているようです。学生支援課としても各方面にアンテナを張って、学生にリアルな情報提供と指導を行っているところです。

新井 学生には乗り遅れないように、情報収集は早めに行なうように指導しています。

学生支援課のサポート体制は、プログラム上大きな変化はないですね。他大学と比べても特別なことを行なっているわけではありませんが、就活の流れに沿った各種セミナーの開催、きめ細かな個別の就職相談といった、当たり前のことを堅実に行なっていることで、学生には安心感があるようです。

具体的にはどのようなサポートを行っていますか?

塩野 就職のためのガイダンスやセミナーは、基本的には3年次から始まります。ただし近年は、就職支援というよりもキャリア支援といった観点で、対象を1年生、2年生にも拡げた、仕事に就くこと、社会人となるとはといった職業観を醸成するセミナーを増やしています。また、就業後のミスマッチを未然に防ぐために実際の仕事を体験するインターンシップを積極的に勧め、県内外の優良企業に受入れを促進するなど環境を整えています。

角田 就職相談は、月曜から金曜の毎日12時



塩野 浩司 さん
学務部 学生支援課
就職支援担当係長



新井 幸生 さん
学務部 学生支援課
就職支援担当係長



角田 仁 さん
キャリアカウンセラー

～16時に行われます。事前予約制の個別相談とフリー相談をキャリアカウンセラー2人が交替で対応しています。キャリアカウンセラーは全部で10人、それぞれがその道のベテランで誰が担当しても質の高いカウンセリングができると自負しています。相談内容はエントリーシートの書き方、面接の想定問答、活動における悩みなど、いわゆる就職についてのありとあらゆることです。心がけているのは一人ひとり親身になって聴き、丁寧に答えることです。

新井 学生にアンケートを取っているのですが、一番満足度の高いのは就職相談なんですよ。



就活学生としてみた 埼大生の魅力とは?

角田 大学受験時から基礎学力は備わっているので、一般教養的な知識レベルは文理問わず高いですね。また自然とじみ出る人間的なマナーが身についています。

塩野 確かに間違いがなく安全性が高いというのが大きな魅力です。逆にいうと、就職を希望する学生には尖ったもの、秀でたものを持っている人が少ないですね。持っていても敢えて消してしまう感じもします。職種によっては面白い存在に成り得るから自信を持って押し出してもよいと思います。

授業もサークルも、オフやアルバイトも一生懸命やってきた姿が人間力として現れるのだと思います。就職だからと一朝一夕で身に付けるものではないですね。埼大生は真面目で堅実なので、就職先へ自信を持って勧められます。

就職支援活動スケジュール (3年次6月～4年次10月)

※2015年度予定

6月～

・インターンシップ説明会

7月～

・就職総合ガイダンス
・職務適性テスト

11月～翌年2月

・自己分析セミナー
・業界研究・企業研究セミナー
・エントリーシート基本対策セミナー
・女子学生セミナー
・その他各種セミナー
・公務員関係説明会

3月～ 採用情報提供開始

・学内合同企業説明会
・模擬グループディスカッション
・模擬面接(個人・集団)

8月～ 採用選考解禁

10月 採用内定(正式)



Close Up -クローズアップ-

地域対抗“知財活用アイデア”プレゼン全国大会in東京 最優秀賞 経済学部 吉田ゼミ

おおつかあいま
大塚 愛真さん
新潟県立長岡高校出身

ほつたやすひろ
堀田 康博さん
広島県立廿日市高校出身

まつまるまさこ
松丸 真子さん
専修大学松戸高校出身

あんざいこうた
安齋 昇泰さん
福島県橘花高校出身



商品を売ることによって新たな付加価値をつける、
地域貢献という独自性をつけたことが勝因。

富士通株式会社の有償開放特許(未活用の特許)を使って、新たなビジネスモデル、商品を大学生が開発して競う、『地域対抗「知財活用アイデア』プレゼン全国大会in東京』が、2014年12月6日、中野セントラルパークで開催された。

全国といっても参加表明した大学のある地域をいくつかのブロックに分け、地区大会を勝ち抜いたチームがプレゼン本大会に出場する。埼玉地区からは埼玉大学経済学部吉田ゼミが『マスコットロボット技術を利用した商品開発』で地区優勝を果たし出場権を得た。そして見事、本選で最優秀賞という栄冠を勝ち取った。

リーダーの大塚さんは、吉田ゼミが最優秀賞とコールされたときの気持ちをこう語った。「プレゼンもうまくできだし、実は取れるという確信はありました。」しかし、自信をもって臨んだ企画も「糸余曲折を経て、やっとのことで完成させたもの」(大塚さん)だという。

プロジェクトがスタートしたのは6月中旬。富士通からテーマ特許が複数提示され、吉田ゼミが選んだのはマスコットロボット技術を応用したスマホアクセサリー機能だった。「埼大のゆるキャラ、メリンちゃんの形をした充電ロボットが最初に頭に浮かんだんです。でも、そこからドンドン変わっていきましたけれど」(大塚さん)。12月のプレゼン大会までは、7月中旬に中間発表、9月上旬に埼玉県内の協力企業への訪問プレゼンというプロセスを経る。その企業訪問で彼らは大きな軌道修正を迫られたのだった。

「ボロボロでしたね。第一声が、これじゃ売れないと!」(安齋さん)

「資料にはいろいろな数字を入れていったのですが、その数字の根拠は? 價格設定はどこから導いた? と、突っ込まれて、答えられないものも、答えてもまったく実現不可能なものもあって、民間企業のモノづくりの現場ってすごいなと思いました」(松丸さん)
「夢と現実の違いというか、つくりたいものではなく、売れるものを考えなくてはならないのだと気付きました」(大塚さん)

彼らはもう一度マーケットの見直しから始めた。機能面では、学内のアンケートでスマホ利用の困ること上位2つ、充電機能と置き忘れ防止のコラボに決定。しかし、これだけでは既存商品に勝る斬新さは望めないことも分かっていた。そのときに後から参加していた堀田さんが決定打を放ったのだ。

「深谷市に『ふっかちゃん』というゆるキャラがあって、地域のイベントに使って災害復興などに役立てているんです。メリンちゃんもいいんだけど、埼大内だけ。どうせ使うならメジャーな『ぐんまちゃん』のようなキャラも取り入れて、着せ替えができるようにすれば、売れやすくなるし、地域貢献もできるのではと考えました。」

「商品そのものではなく、商品を売ることによって新たな付加価値をつけられる案。地域貢献という独自性をつけることができました。経済学部らしくビジネスモデルを打ち出せたことも強みになりました。」(大塚さん)

こうして吉田ゼミの『ゆるちゃらいど』ができあがった。「ネーミングではちょっと難航しましたけれど、ゆるキャラ、チャージャー、androイドの3単語の造語で『ゆるちゃらいど』。これが出てときはもうこれしかないという感じでしたね。」(安齋さん)

彼らはこのプロジェクトを進めてきた6ヶ月に多くのことを学んだという。

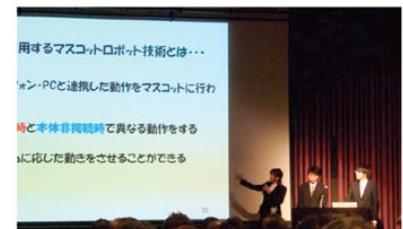
「ひとつのプレゼン大会にさまざまな企業や行政の人たちが関わっている。人のつながりってすごいなと思いました。」(安齋さん)

「地域貢献のことを学んで、就職も地元に貢献できるように頑張ります。」(堀田さん)

「一人でやることには限界がある。チームワークってすごいなと思いました。一緒に頑張ればできるんだって。」(松丸さん)

「今回の商品も最初と最後ではまったく違う姿になりました。人と関わることが大切だし、そこで自分の考えをちゃんと伝えることも大切。いろんな視点を持つことと、いろんな視点を周りから学ぶことが大切だと思いました。」(大塚さん)

ちなみに『ゆるちゃらいど』は現在、発売の予定までは立っていない。試作品でさまざまな検証を行っている最中だという。



地域貢献系コンテスト受賞にみる埼大生の活躍

第2回福島県再生可能エネルギー普及アイデアコンテスト 入賞 『福島県沖における風力発電を用いた水素ステーションの設置』



まつ し た エ リ
松下 恵理さん

大学院理工学研究科 環境システム工学系専攻
工学部環境共生学科卒
私立中村高等学校出身

既知と未知の可能性をブレンドして、再生可能エネルギーができるこことを拓げたい。



第2回福島県再生可能エネルギー普及アイデアコンテスト(朝日新聞社主催、福島県後援、奥地建産特別協賛)で、大学院理工学研究科 松下恵理さんが『入賞(3位に相当)』に輝いた。同コンテストは、再生可能エネルギーの先駆けの地を目指す福島県が、再生可能エネルギーの普及を促進するためのアイデアを募集したもの。第2回の今回は、全国から24チーム・個人の応募があった。松下さんの応募論文テーマは『福島県沖における風力発電を用いた水素ステーションの設置』、卒業研究に再生可能エネルギーを取り上げていたので、それほど敷居は高くなかったという。

一時かなり話題にもなり、期待されていた再生可能エネルギーだが、既存エネルギー関連会社の既得権や建設コストの問題などで、決してフォローの風が吹いているとは言い難い現状がある。なぜ、松下さんは再生可能エネルギーを研究テーマに選んだのだろう。

「再生可能エネルギーというより、環境に興味がありました。なかでもエネルギー関連。そのエネルギー問題を解決するキーが再生可能エネルギーだったということです。その分野の勉強ができるということで埼大に入ったんですよ。私、環境共生学科の第1期生なんですよ」(松下さん、以下同)

同アイデアコンテストでは、夢物語ではな

く既存技術を活用した実現可能性の高い提案に注力したという。「いま現在まだ試験運転中ですが、福島県沖に洋上風力発電装置が1基建っています。またすでに海のなかの環境アセスメントも済んでるので、導入しやすいバックグラウンドがありました。すでに使っているものしか使わないので、具体的なコスト計算が可能でした。」

提案した装置・施設の概要はこうだ。洋上に風力発電装置を浮かべ発電し、その電気で水素をつくる、水素の原料は周囲にある海水なので原料を運ぶ手間はかかるない。電気もその場で使うので配電のロスがない。できた水素は洋上の水素ステーションに保管し、そのまま水素エンジンを搭載した漁船に供給する。さまざまなロスや中間コストはすべて省かれる。

「陸上では水素燃料のクルマがすでに発売されましたけれど、船舶用の水素エンジン開発も進んでいます。コンテストでは、漁船で使われている油の量を電気のKw数に直して、そこから水素だったらどのくらいの量に相当するのか計算しました。現状だと風車1基で生産できる水素量は、船の燃料としては力不足です。まずは漁船用のライトや電動リールなどを動かすことに使って、少しずつ燃料を減らしていく方向、いうなればハイブリッドの提案をしました。」

入賞の評では、発想の独創性と、やはり既存技術を使った実現可能性の高さが称賛されていました。

6月27日、表彰式の前日、大会側の企画で『福島復興再エネツアーア』が行われ、松下さんも参加した。そのときの感想と今後の抱負を語ってもらった。

「実際に稼働している再生可能エネルギーの施設を何ヵ所か見学しました。洋上風力発電装置、ソーラーシェアリングを導入したトマトファーム、丘の上に風力発電の風車が何基も建っている風力ファーム、いまだ残る3.11震災のつめ跡も見ました。いろいろな意味で再生可能エネルギーを見つめ直す良い機会になりました。今後はまだ修士に進んだばかりですが、院だから理論研究ではなく、実際いま役立つ再生可能エネルギーの技術を開発していきたいです。再生可能エネルギーの社会環境として、使えるのに使っていない技術や場所がたくさんあるんです。その先はその知識や技術を活かせる環境の職に就ければいいですね。この受賞を機に、再生可能エネルギーに興味を持って、私と志を共にする学生が出て来てくれることを願っています」





2015

日本で 世界で 活躍する 埼大生！



Saitama
University
Congratulations!
学生表彰

学術研究や課外活動の場で、埼大生が大活躍しています。
埼玉大学に入学して、先輩たちを手本として頑張ってみませんか。



学長を囲んでの記念撮影

所属	氏名	サークル名等	受賞内容等	大会名等	受賞年月日
理工学研究科	豊田 史朗	——	ポスター発表者賞	第8回窒化物半導体国際会議	2014.8.28
理工学研究科	佐藤 新	——	優秀ポスター発表者賞	2014年度照明学会全国大会	2014.9.5
理工学研究科	村松 洋亮	——	ポスター賞	第18回ケイ素化学協会シンポジウム	2014.10.17
理工学研究科	国府田 諭	——	優秀賞	第53回日本気象学会大会 若手・学生発表コンテスト	2014.10.24
理工学研究科	鶴見 純一	——	学生優秀賞	2014アジア・パシフィックマイクロ波会議	2014.11.6
理工学研究科	小貫 朋実	——	ICIC2014 Best Paper Award	ICIC2014 (International Conference on Intelligent Computing)	2014.8.5
理工学研究科	宇賀神 上総	——	第10回OPJベストプレゼンテーション賞	Optics & Photonics Japan 2014 (OPJ2014)	2014.11.7
理工学研究科	杉浦 希望	——	平成25年度発表奨励賞	電子情報通信学会非線形問題研究会	2014.12.3
理工学研究科	山口 翔平	——	優秀ポスター発表賞	第4回CSJ化学フェスタ2014	2014.11.10
理工学研究科	藏本 悠太	——	優秀ポスター発表賞	第4回CSJ化学フェスタ2014	2014.11.10
理工学研究科	田中 尚志	——	ポスター賞	第11回21世紀大腸菌研究会	2014.6.6

SEARCH 森田 沙也佳



もりた さやか
森田 沙也佳さん

大学院理工学研究科
生命科学系専攻
埼玉県立不動岡高校出身



第21回日本行動神経内分泌学研究会
最優秀発表賞

理学部には魅力的な先生が多い。
自分の研究が一番面白いと思っている。
だから授業も面白い。

学会でプレゼンテーションが終わったあとの質疑応答のとき、その道の権威で、ずっとその先生の本を読んで参考にしていた先生から「あなたは大変な努力をされたのですね」とねぎらいの言葉をかけていただきました。受賞もうれしかったけれど、そのひと言が何よりもうれしく、苦労が報われたと感激しました。

私の所属する研究室のテーマは「脳の性分化」、男女の特異的な行動の研究から男の脳と女の脳の違いを調べています。そのなかで私は、メスの特徴的な行動である子育てに絞り、そのコミュニケーション行動と経験・記憶、ホルモンや遺伝子との相関関係を研究しています。観察や実験はラット、マウスを使って行います。身体を舐めてきれいにするグルーミング、巣に連れ戻すトレーリングといった行動を観察するのですが、出産後母子が一緒にいる時間と引き離すタイミング、そして再会させるまでの日数の組合せパターンを7群つくり、どのパターンが速やかにちゃんとで

きるかを地道にみていきます。これまで経験が行動を促進することは解っていました。しかしどの時期が重要か、記憶経路が確立するのかが未解明でした。今回の発表はその時期の特定につながり、このあとに続く時期と分子生物学的なメカニズムとの作用の研究に進むことができたのです。動物を対象とする観察・実験は、人間の都合は問題外で、とにかく動物のリズムやペースに私たちが合わせなくてはなりません。1ヶ月半くらい付きっきりというように、その点が苦労したと言えば苦労と言えますけれど、逆にラットたちに感謝の気持ちはあります。

これからは行動解析から一步進んで、遺伝子やたんぱく質の発現と行動の関係、視床下部と記憶の関係に研究対象は移っていきます。私の在学中に解明できるかまだ不明ですけれど、将来的に私たちの研究成果が人間の乳幼児期子育て問題解決の糸口になればいいなと思っています。



所属	氏名	サークル名等	受賞内容等	大会名等	受賞年月日
理工学研究科	HUANG CHENGCHENG	——	Excellent Poster Award	Society for Glycobiology (SFG) & Japanese Society of Carbohydrate Research (JSCR) Satellite Meeting ; Glycans in Neuroscience area	2014.11.16
教育学部	猪籠 夏子	——	日本冷凍空調学会賞・優秀講演賞	日本冷凍空調学会・年次大会	2014.12.18
教育学研究科	齊藤 史明	——	奨励賞	第68回二紀展	2014.10.18
理工学研究科	森田 沙也佳	——	最優秀発表賞	第21回日本行動神経内分泌学研究会	2014.9.5
理工学研究科	伊藤 一真	——	優秀演題賞	第56回日本平滑筋学会総会	2014.8.8
理工学研究科	鈴木 勝己	——	Best Poster Award	11th International Conference on Nano-Molecular Electronics (ICNME 2014)	2014.12.19
理工学研究科	西村 晋平	——	ダブル・ディグリー・プログラム第1号学生	埼玉大学理工学研究科と台湾国立交通大学理学院にてプログラム始動	2014.4
			第一期生	官民協働海外留学支援制度 トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム	2014.6.30
			ベストポスター賞	The 3rd International Summer Course Poster Session	2014.7.10
理工学研究科	Amrita KUMARI	——	Best Poster Award	5th ISAJ Symposium on Advances in Natural Sciences & Technologies	2014.12.1
理工学研究科	洲崎 ふみ	——	ポスター賞	9th International Conference on Nuclear Physics at Strange Rings (STORI'14)	2014.10.2
理工学研究科	金羽木 悅二	——	ベストプレゼンテーション賞	2014年度精密工学会秋季大会学術講演会	2014.9.18
工学部	新井 康司	——	ベストプレゼンテーションアワード	第5回有機分子・バイオエレクトロニクスの未来を拓く若手研究者討論会	2014.9.28
理工学研究科	清水 俊介	——	Best Poster Award	FCV2015 (21st Japan-Korea Joint Workshop on Frontiers of Computer Vision)	2015.1.29
教育学部	永井 真美	——	最優秀ポスター賞	日本食品科学工学会平成27年度関東支部大会	2015.3.14
教育学部	高間 淳平	ダンス部	モダンシニア部門 第8位 努力賞	神奈川県芸術舞踊祭No.10ヨコハマコンペティション	2014.11.16
教育学部	趙 瞳熙	柔道部	女子57kg級の部 優勝	第19回大阪国際親善柔道大会	2014.11.16
経済学部	吉田ゼミ「ゆるちゃろいど開発チーム」	——	最優秀賞	地域対抗「知財活用アイデア」プレゼン全国大会in東京	2014.12.6

SEARCH 高間 淳平



ダンスは身体を使った、想いの自由な表現。
ソロでも群舞でも、一人ひとりの持ち味が
活かせるから面白い。



たかま じゅんぺい
高間 淳平さん

教育学部 保健体育専修 2年
神奈川県立大和高等学校出身

神奈川県芸術舞踊祭No.10
ヨコハマコンペティション
モダンシニア部門 第8位 努力賞



「迫る現在、巡る刻」、ヨコハマコンペティションで私が躍った作品のタイトルです。1日24時間1年365日、同じように刻まれている時間も、いまという瞬間はひとつで、一瞬一瞬が常に迫り流れ去っていく。そんなイメージを男性舞踊らしいパワフルさとダイナミックさを前面に出して表現しました。自分の持ち味は倒立なので、動きの流れのなかでどこに入れれば効果的か、伝えたいこととリンクしているかを、練習の映像をチェックしながらプラスしアップして本番に挑みました。自分がやりたかったことは全部出せたし、踊りの精度も高かったと思っています。モダンシニア部門(ソロかデュエット)は約80組のエントリーがあり、そのなかで8位・努力賞は、埼大に入って初めてのソロ演技で、しかも1年生でとれたことで上出来だったと思います。これがスタートですから、2年、3年と進級していくにつれて表彰台のもっと高いところを目指さなくてはと肝に銘じています。

ダンスは高校の部活から打ち込んでいて、2012年8月に神戸で開かれた全日本高校・大学ダンスフェスティバルに出場しました。そのときに大学の部で第1位・文部科学大臣賞を受賞したのが埼玉大学でした。舞台全体を使ったメリハリの効いた演出、表現のインパクト、そのすべてに魅了されてしまい、ダンスを続けるために進学は埼大しかないとその瞬間に決めました。

ダンスの面白さ、楽しさは、自分の想いや伝えたいことを自らの身体で表現し、それを観て解ってもらうことだと思います。始めたばかりのころは誰でも何となく恥ずかしさが先立ちますけれど、一度カラを破れば意外とすぐにのめり込むことができます。体格に関係なくそれぞれの個性を発揮できるのもよいところだと思います。将来は保健体育の教師として、自分が先生にダンスの世界に引っ張ってもらえたように、中高生に踊る楽しさダンスの面白さを教えられたらと思っています。

THE MESSAGE
FROM
A GRADUATE活躍する卒業生からの
メッセージ

探訪

埼玉大学大学院理工学研究科支援室
大学院教育部係

三浦 淑恵

Yoshie Miura



慣習にとらわれず、良いところは踏襲し、
改善できるところは新たな視点で見直す。
学生にも先生にも開かれた支援室にしたい。

どのような仕事をしているのですか？

入職、配属されてからまだ4ヶ月ですから、新人の仕事習得中というところです。大学院理工学研究科支援室は総務、研究支援、私の所属する大学院教育部係などからなり、学部でいえば学務係と同じような仕事をしています。私は主に大学院生の授業に関するさまざまな問合せや各種手続きの相談を受けています。意外だったのは想像していたよりも先生とのやり取りが多いことです。学生からの先生への問合せ取次や依頼事項の連絡、学生から提出された論文の学内外の先生方への送付、などなど。先生ってこんなにいたんだと驚くほど。先生方の顔と名前を憶えるのが目前の課題にもなっています。

理工学研究科は留学生が多いので、日本語表記しかない手続き書類上のトラブルや日常生活の相談で日々窓口は賑わっています。多くの学生が英語で問い合わせてくるので、初めのうちはネイティブな先輩職員に任せっぱなしでした。最近は習うより慣れろで積極的に窓口に立ち、何とか会話が成り立つくらいまでになりました。

大学事務は日々のルーティン業務のほか、学事日程に沿った業務があり、1年を通してみると1サイクル経験できません。とにかくいまは毎日が経験と勉強の連続です。

なぜ埼大職員の道を選んだのですか？

ゼミのテーマが地域経済・災害復興だったことから、行政と関わる仕事はずっと意識していました。公務員を目指す気持ちを固めたのは2年時の後半、民間企業はまったく考えず公務員試験に向け準備を進めていました。公務員試験と国立大学職員の採用試験は科目がほとんど同じなんです。だから最初はついでにくらいな気持ちで考えていました。気持ちが大学職員に傾いたのは、例えばゼミで災害復興について調べていて建物の耐震性がどうの河川の増水がどうのと、経済学部の知識だけでは限界があることに気付いてからです。行政でもことあるごとに理系の専門知識が活用されています。とはいっても理系学部に転部するのは現実的ではない。ではどうするか、優秀な理系人材を輩出する大学の職員として彼らをサポートする、支える役に回るのも有りだと考えたからです。

埼玉大学を選んだのは、4年間通って埼大のことはよく知っているメリットと、とても密度の濃い充実した学生生活を送らせてもらった埼大に恩返しをしたいという想いですね。理工学研究科に配属されたのはまったくの偶然、希望が叶って内心ガツツポーズをしていました。これから理系人材のよき支えとなるべく自分も成長していきたいと思っています。

学生の視点から見ると、学生は大学職員のことをほとんど知らないし意識もしない。先生ではないから接点もあまりないわけです。ところが職員になって気付いたのですが、職員は学生のことをけっこう気にかけているのです。学生が学修に励み、充実したキャンパスライフを過ごせるように、良い学部、大学院にしようと頑張っていますから、みなさんも支援室、大学職員をもっと活用してくださいね。



PROFILE

2010年3月 宮城県佐沼高等学校卒業
2011年4月 埼玉大学経済学部経営学科入学
2015年3月 同 卒業
2015年4月 現職

放送研究会

とにかく聴いてみて! 「ラジオキャンパス」

FM浦和(RED'S WAVE78.3)

毎週日曜日19:00~19:53 放送

制作:埼玉大学ラジオキャンパス製作委員会



放送研究会が手掛ける、FM浦和の「ラジオキャンパス」と、放送研ブログ内配信の「ネットラジオ」。どちらも埼大のさまざまなトピックスを中心に、埼大をより身近に感じてもらいたい気持ちを企画に込めて制作されている。番組の存在自体を知らなかった人も、これを機に彼らの心意気にチューニングしてみないか。聴き続けると、少しずつ埼大の魅力が分かってくるはず。



山下 青
Ao Yamashita

工学部電気電子システム工学科3年
千葉県立小金高等学校出身

Q どのような活動をしているのですか?

A 年間を通して2つの番組制作を中心活動しています。ひとつは2008年からレギュラーとして放送されているFM浦和の「ラジオキャンパス」(毎週日曜日 19:00~19:53放送)の企画制作。もうひとつはいくつかのコンテンツを週1回くらいの間隔で更新して放送研ブログに配信している「ネットラジオ」の企画制作です。

「ラジオキャンパス」は、学生自らが企画構成、台本づくり、収録まですべてを行った番組を、ローカルFM局とはいえ公共電波に乗せて地域のみなさまにお届けしています。制作スタッフは、学年をまたいで構成(ディレクター各学年3人、パーソナリティー同1人、ミキサー同2,3人)される「ラジオキャンパス製作委員会」約20人。毎週火曜日の企画会議ではワイワイガヤガヤ企画案を出し合って、視聴者の期待に応える番組づくりを進めています。

「ネットラジオ」は、部室内の簡単な機材を使ってのネット配信なので、やりたい人がやりたいときにつくって、放送研のブログにアップロードするというスタンス。一人でもグループでもOKで、放送コードに触れなければ内容も自由です。

Q 放送研の魅力は?

A ラジオに限らず放送メディアの番組制作に興味があり、共通の熱を持ついる人が集まっていることですね。活動の性質上、話好きが多いのも特徴。いい意味で上下関係ではなく、部室はいつもガヤガヤ楽しい雰囲気に溢れています。研究会自体の歴史も10年と浅く、代々引き継がれてきたような縛りないので、本当に自由にやりたいことをやっている感じです。自由な雰囲気のなか、面白くて役に立つ番組をつくれる、これが一番の魅力です。

Q 就職先は放送関係?

A メディアに興味を持っている人は多いけれど、自分たちの活動が就職に直結するほど甘い世界ではないことも自覚しているので、放送メディアに就職する人はほとんどないです。現実的な将来のレールを敷くのではなく、いま番組をつくるのが楽しくて、聴いてもらうことで一人でも埼大ファンが増えることを望んで活動しています。でも、ここ2年続けて声優を目指す部員が入ってきたので、今後は変わっていくかもしれませんね。いろんな放送関係職で活躍する後輩ができればうれしいです。



■年間活動

4月 新入部員勧誘
夏・冬 合宿旅行

■ラジオキャンパス

火曜日 企画会議
水~金曜日 取材および台本作成
土曜日 FM浦和スタジオにて収録(翌週放送分)
日曜日 放送

■ネットラジオ

企画会議、収録、配信:随時

会場進学説明会

今年度(9月以降)の予定は以下のとおりです。このほかの参加会場は、順次ホームページに掲載します。

期日	時間	会場	説明会名
2015/9/6(日)	10:00~16:40	北海道ACU	主要大学説明会
2015/9/10(木)	15:00~18:30	ホテルメトロポリタン長野	大学・短期大学進学相談会
2015/10/3(土)	10:30~17:00	夢メッセみやぎ	夢ナビライブ2015仙台会場
2015/10/14(水)	15:00~18:30	大宮ソニックシティ	大学・短期大学進学相談会
2015/10/17(土)	10:30~17:00	マリンメッセ福岡	夢ナビライブ2015福岡会場
2015/11/3(火・祝)	13:00~17:00	駿台大宮校	首都圏国公立大学合同説明会
2015/11/12(木)	15:00~18:30	大宮ソニックシティ	冬季大学・短期大学進学ガイダンス
2015/11/15(日)	13:00~17:00	駿台仙台校	首都圏国公立大学合同説明会
2015/11/22(日)	13:00~17:00	駿台千葉校	首都圏国公立大学合同説明会
2015/11/23(月・祝)	13:00~17:00	長野予備学校信学会校舎	首都圏国公立大学合同説明会
2015/11/28(土)	13:00~17:00	駿台横浜校	首都圏国公立大学合同説明会
2015/11/29(日)	13:00~17:00	駿台立川校	首都圏国公立大学合同説明会

あなたの町にも
行くかもしないよ!



各募集要項配付について

入試の情報は
これでバッキ!!!

『平成28年度 入学者選抜に関する要項』ならびに
『平成28年度 埼玉大学特別入試学生募集要項』の配付について

ご希望の方は [本学ホームページ](#) からお申し込みいただくか、正門脇の守衛所で受け取ってください。

『平成28年度 埼玉大学工学部アドミッション・オフィス入試 学生募集要項』の配付について

ご希望の方は [本学ホームページ](#) ▶ [学部・大学院](#) ▶ [工学部](#) をご覧ください。

『平成28年度 埼玉大学学生募集要項』の配付について

11月上旬から配付開始予定です。

入試に関するお問い合わせ 埼玉大学アドミッションセンター 電話 **048-858-3036**



図書館3号館(仮称)を増築工事中です!

竣 工 10月 [予定]
オープン 11月

グループワークやディスカッションに利用できる学修スペース(ラーニングコモンズ)を設置し、より充実した学修環境を提供します。

編集
後記

埼大生を採用(2015年4月入社)した企業採用担当者のアンケートで、採用に至った埼大生の魅力は、「基礎学力がある」、「人間的魅力を感じる」がもともと多く挙げられていました。突出した専門知識を駆使する一部の仕事を除き、多くの企業は、社会人としてのベースとなる広い一般教養や人間力を求めていることが分かります。文理融合型人材育成に力を注ぐ埼玉大学にこれからも期待が集まります。

Saidai Concierge vol.21 平成27年8月発行

■ 編集発行 埼玉大学総務課広報室
■ 企画・制作 コスモプリント(株)
■ 問い合わせ先 埼玉大学総務課広報室
〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255
TEL 048-858-3932 FAX 048-858-9057
E-mail koho@gr.saitama-u.ac.jp
URL <http://www.saitama-u.ac.jp>

